

## ヨブ記における「恐れ」に関する語彙

From: The Hebrew-English Concordance to the old testament

	原語	読み	OT	Job	聖書箇所
1	יָרֵא	ヤーレー	381	12	1:1, 8, 9/2:3/5:21, 22/6:21/9:35/11:15/32:6/ 37:22/37:24
2	יָגֵר	ヤーゴール	5	2	3:25/9:28
3	פָּחַד	パーハド	25	3	3:25/4:14/23:5
4	בָּהַל	バーハル	39	5	4:5/21:6/22:10/23:15, 16
5	בָּעַת	バーアット	16	8	3:5/7:14/9:34/13:11/13:21/15:24/18:11/33:7
6	גָּוַר	グール	98	2	「恐れ」の意味として使われているのは2回。 19:29/41:25
7	זָחַל	ザーハル	3	1	32:6
8	חָפַז	ハーファズ	9	1	40:23
9	חָרַד	ハーラド	39	2	11:19/37:1
10	חָתַת	ハータット	53	5	7:14/31:54/32:15/33:16/39:22

- 神を「恐れる」という神に対する感情は、旧約聖書においてはきわめて重要です。

旧約の人々は「主を信じる」と「主を恐れる」ことは同義と考えていたようです。新共同訳では「畏れる」という文字を使っています。「恐れる」は、敵や死、危険や失敗、あるいは秘密の発覚を心配してこわがるという面があると同時に、「畏れる」という面を合わせ持っています。「畏れる」(畏敬、畏怖)とは、かしこむ、恐縮する、おそれおおい、自然やいのちの神秘に触れたときの驚きの感覚です。

- 「旧約聖書ヘブル語大辞典」を編集した名尾耕作氏は、「主を恐れる」というヤーレー-יָרֵאを次のように説明しています(「旧約聖書名言集」講談社学術文庫、244頁)。

「主を恐れるということは、たんに主を畏敬する意味ではありません。神を恐れた人物として、ヨブとアブラハムが聖書に記されています。・・創世記(22:12)によりますと、アブラハムが、神の命令に従って愛する子イサクをモリヤの山でささげたことを主の使いは、アブラハムが神を恐れていたからだと言っています。アブラハムのこの行為を新約聖書のヘブル書(11:17~19)では、『神には人を死者の中からよみがえらせることもできる』という信仰によって、アブラハムはイサクを神にささげたのだと言っています。ですから、神を恐れるというこ

とは、・・・人にはまったく不条理に思える真理を信じるということです。すなわち、神への全幅的信仰であります。これが人生の知識、知恵の初めであり、基本であるのです。」

●箴言に「主を恐れることは知識の初めである」(1:7、詩 111 篇 10 節)、「主を恐れることはいのちの泉」(14:27)とあるように、「主を恐れる」ということは神と人と正しいかかわりを表現することばのようです。

●ちなみに、詩篇 27 篇 1 節には、「恐れ」を意味する二つの動詞がパラレリズムで使われています。パラリズムを通して、類義語をまとめてみるのも面白い勉強法です。

【新改訳改訂第3版】詩 27:1

【主】は、私の光、私の救い。だれを私は恐れよう。 ⇒ אֶפְרָא

【主】は、私のいのちのとりで。だれを私はこわがろう。 ⇒ פָּחַד おののく(新共同訳)、おじ恐れる(口語訳)